



に国旗、もいいかげんになったと感じている。

天皇陛下の退位で平成も残すところ1年。新元号への関心も高まってきたように感じるこのごろだ。来年の5月には新天皇即位を祝して10連休が予定されているとも聞く。

いま注目の働き方改革も、過労を予防しメリハリの利いた働き方をしましょう、という意味と私は受け止めており、人気取りの祝日増とは別問題だ。

稀有なことだからこれも良いことかと感じるが、一方で来年は天皇誕生日がない1年ともなるようだ。今上陛下の誕生日は

明治天皇や昭和天皇と同様祝日となるのだろうか。

祝日のありよう



草野 義輔

それにしても近年意味不明の祝日が増え、わが日本は今では世界でも1、2位を争う祝日大国となっている。さらに連休を増やす、という思惑から親しんできた祝日が月曜日に移され

分、授業日が減ることになる。ゆとり教育から一変し授業時間の確保、が強く要請されている。結果、最近では小学校も夏休みが削減される事態だ。休日増も、授業時間確保も国の政策であるが、相矛盾した内容を持っていると思う。

その場しのぎの政策が世界を席巻しているように思える昨今だが、せめてわが日本は全体を俯瞰した政治であってほしいと願うばかりだ。

学校現場では休日増でその分、授業日が減ることになる。

「祝日」の意味が薄まり、祝日

市 (昭和学園高校理事長・日田